

EU Indicators

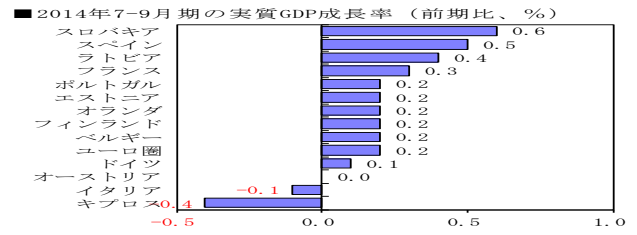
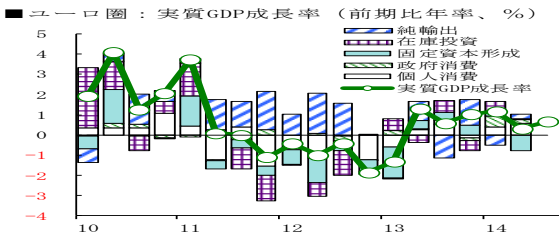
欧州経済指標コメント：7-9月期ユーロ圏GDP速報値

発表日：2014年11月14日(金)

～ドイツはテクニカル・リセッションを回避～

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

- 7-9月期のユーロ圏の実質GDP成長率の速報値は前期比+0.2%、同年率+0.6%。暖冬の反動減と暦要因で下振れした4-6月期（同+0.1%、過去2四半期が0.1%ポイントずつ上方修正）の後の割に反発は限定的。国別の内訳は、スペイン（4-6月期：同+0.6%→7-9月期：同+0.5%）が引き続き成長を牽引したほか、フランス（同▲0.1%→同+0.3%、前期はゼロ%から下方修正）がプラス成長に復帰した一方、同じくプラス圏に復帰したドイツ（同▲0.1%→同+0.1%、過去2四半期が0.1%ポイントずつ上方修正）の戻りが弱く、イタリア（同▲0.2%→同▲0.1%）の停滞持続も足を引っ張った。なお、今回の速報値の発表に合わせて新基準（ESA2010）のGDPを採用、過去分も遡及改定された。また、ギリシャが季節調整値の公表を再開し、今年の1-3月期にプラス成長へ復帰していたことが確認。
- 需要項目別の内訳は12月3日の改定値で公表予定。既報の国別結果からは、ドイツで設備投資や在庫投資が成長を大きく押し下げたが、個人消費が大幅に増加したほか、輸出増が輸入増を上回った結果、外需も若干ながら成長率を押し上げた。フランスは設備投資の減少が続いた一方、個人消費と政府消費が増加したほか、在庫投資もプラス寄与。スペインは人件費抑制による輸出競争力の回復に加え、雇用情勢の限界的な改善や財政緊縮ペースの緩和が成長を後押ししている。中銀の見込み値によれば、内需項目が前期同様に揃って増加した一方、輸入増により外需寄与が小幅マイナスとなった模様。
- 月次指標の推移から判断して、ドイツのテクニカル・リセッション（2四半期連続マイナス成長）を危ぶむ声も一部にあったが、個人消費に支えられプラス成長に復帰した。例年に比べて夏休みの時期が後ずれした影響で8月の生産統計が大幅に低下、統計技術上の問題も成長下振れに働いた。9月の経済指標は揃って反発したが、前月の落ち込みを取り戻しておらず、一部は10月にもずれ込んだ模様。今期の成長を抑制した在庫投資は10-12月期の成長回復を後押しする可能性が高い。ただ、企業景況感の冷え込みや設備稼働率の低下からは、先行きの企業活動も低調にとどまることが予想される。



出所：Eurostat

出所：Eurostat

■ユーロ圏GDP（前期比年率<%>、括弧内は寄与度<%ポイント>）

	名目GDP	実質GDP	内需					外需		
			個人消費	政府支出	固定資本投資	在庫	輸出	輸入		
12/10-12月期	▲0.1	▲1.9	(▲1.7)	▲2.2	▲0.2	▲2.9	(0.1)	(▲0.1)	▲2.9	▲2.9
13/1-3月期	▲0.0	▲1.3	(▲1.3)	▲1.1	▲1.1	▲7.6	(0.6)	(▲0.0)	▲0.3	▲0.3
13/4-6月期	2.5	1.3	(0.4)	0.5	0.1	2.2	(▲0.4)	(0.9)	7.7	6.0
13/7-9月期	1.3	0.6	(1.7)	1.0	0.7	2.1	(0.6)	(▲1.1)	2.4	5.7
13/10-12月期	1.7	1.0	(▲0.3)	▲0.2	▲0.7	2.6	(▲0.5)	1.3	4.4	1.5
14/1-3月期	2.4	1.2	(1.7)	0.8	2.6	1.0	(0.5)	▲0.5	1.0	2.4
14/4-6月期	0.8	0.3	(0.1)	1.1	0.9	▲3.7	(0.0)	0.2	5.2	5.1
14/7-9月期	—	0.6	—	—	—	—	—	—	—	—

出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。